

## <巻頭言>



### 平成20年の年頭にあたって

吉 越 洋\*

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり，会員ご一同様の益々のご活躍と，当会の発展を祈念申し上げます。

早いもので，平成になって20年目を迎えました。平成元年は，株高，土地高，低金利といったバブル経済のピークにあり，東証株価は史上最高値を記録した年でした。その後のバブル崩壊による不況から景気回復まで長期間を要し，最近漸く好況観が出てきましたものの，サブプライムローン問題，原油，ガス，レアメタル等の高騰など，資源のない日本にとって，経済の先行き不透明感が増す由々しき環境の中で新年を迎えることとなりました。

さて，当会の昨年の活動を振り返ってみますと，6月にロシアのサンクトペテルブルグにおいて国際ダム会議第75回年次例会が開催され，日本からは80名という多くの方々に参加していただき，参加者皆様の技術委員会での討議，アジアパシフィック地域会議及びシンポジウムへの論文発表などにより，国際会議に対する日本の積極姿勢を示すことができたと思っております。改めて会員の皆様のご協力に感謝いたします。また，同会議の総会において本会常務理事の松本氏が副総裁に就任されたことは，誠に喜ばしい限りであります。

10月には，日中韓持ち回り主催の第4回東アジア地域ダム会議が中国の成都で開催され，日本からは，これまた41名という多くの方々に参加していただきました。三峡プロジェクトで得られる利益を背景とした，中国の長江支流金沙江における大規模ダム/大規模水力発電所の建設プロジェクトの一端を視察する機会に恵まれました。中国大陸西南部で発電した電気を大消費地である中国東部及び世界の工場といわれる沿海部まで延々と送電するというこの計画には，改めて国土の違いを認識させられました。

---

\* (社)日本大ダム会議 会長 (東京電力(株) フェロー)

11月には、「土木の日」の記念事業の一環として、本会も主催者の一員として大規模ダム竣工50周年記念事業が行われ、約250名の参加者のもと記念式典が開催されました。高橋裕東大名誉教授から「佐久間ダム・小河内ダムが社会に与えた影響」と題した基調講演があり、両ダムが当時の社会・経済に与えた便益の大きさを、先輩方の気迫ある生き様に、参加者の多くが感動したのではないかと思います。また、石井土木学会長のコーディネートのもと「大規模ダム、その土木技術の歴史と将来－佐久間ダム・小河内ダムに学ぶ」と題したパネルディスカッションが行われ、ダムの役割・機能あるいは環境への影響を一般社会に正しく理解してもらうための情報発信、及び情報提供の場を設けることの重要性、ならびに既設ダムの有効活用が今後の課題であることが認識されました。これらの事項は、日本大ダム会議が重点事業として取り組んでいる4つの事項、①国際技術交流、②ダム及び貯水池に対する公共の理解、③既設ダムの再評価、有効活用、④技術的、社会的諸問題解決に寄与する研究、に含まれておりますが、改めて重点事業を積極的に推進する必要があると考えております。

さて、本年は6月にブルガリアのソフィアにおいて、国際大ダム会議の第76回年次例会が開催される予定であり、「ダムの運用、補修及び改良」をテーマとしたシンポジウムには、日本から13編の論文が投稿されることになっております。本会の重点事業の一つである国際技術交流の点から、昨年同様に、多くの方々に技術委員会ならびにシンポジウムに出席していただき、日本からの情報発信あるいは海外の技術情報の収集をお願いしたいと思っております。

また、ご高承のとおり10月には日本が主催国として、第5回東アジア地域ダム会議をパシフィコ横浜で開催する予定であります。会議の準備及び運営ならびにスタディツアーに際しては、これまた会員の皆様のご理解とご協力が不可欠であり、何卒よろしくお願い申し上げます。

本年につきましても、会務の具体的運営にあたっては、執行部、事務局幹部の皆様と協議・調整を密にして、遺漏無きを期したいと考えております。会員各位のご指導とご協力を改めてお願い申し上げます。